

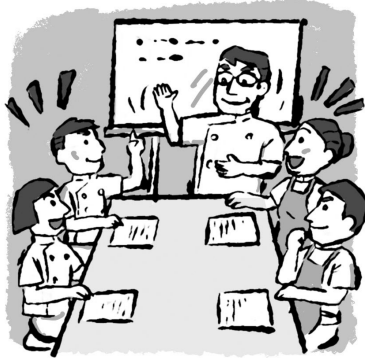
「人や集団を率い、たしかな方向へ導く者をリーダーという。リーダーにはさまざまなタイプがあるが、総じてリーダーに求められる資質をリーダーシップという」と、倫理研究所理事長の丸山敏秋は、著書『教育力』の中で述べています。リーダーシップとは、組織やチームの目標を達成するため、人に影響を与え、行動を促す能力と言えます。今週は、ある若手社員の奮闘記を紹介します。

パン屋で働くMさんは、入社して十年目になります。少しずつ任される工程が増えていき、現在では一通りのパンを作るようになりました。仕事にも自信を持って取り組めるようになってきた頃、Mさんはオーナーから突然呼び出されました。

オーナーは、「若手社員で新商品の開発プロジェクトを立ち上げ、そのリーダーをMさんに任せたい」と話しました。Mさんは「自分に務まるだろうか」と不安に思いましたが、オーナーの強い希望もあり、その役を引き受けることにしました。

後日、プロジェクトメンバーの顔合わせが行なわれました。メンバーは二十代から三十代の若手社員で、一週間後の会議で各自、アイデアを出し合うことになりました。

Mさん自身も「どのようなパンがよいだろうか」と一生懸命に考えました。Mさんの店では、あんぱんが最も売り上げを誇る商品であることから、「あんぱんをアレンジした商品がよいのではないか」と考え、自分なりの案をまとめて会議に臨みました。



リーダーの経験を通して 自分の長所に気づいた

ところが、Mさんの案に対するメンバーの反応はいまひとつで、「あんぱんの売り上げが落ちる」「アレンジは邪道だ」など、厳しい意見が相次ぎました。反論したい気持ちもあったもののMさんはその言葉を受け止め、他のメンバーの案に耳を傾けました。

他のメンバーの案は、Mさんにとっていざい興味深いものばかりでした。自分では思いつかない案が多く、結果として、皆のアイデアを取り入れながら一つのパンを作るようになりました。さらにMさんは、作業にあたって、それぞれの得意分野を生かせるよう役割分担をすることを提案しました。例えば、Aさんは生地作り、Bさんは成形、Cさんは焼きを担当するといった具合です。その後は、一週間に一度打ち合わせを行ない、試作を重ねていきました。

プロジェクト開始から半年後、商品が完成しました。オーナーからも太鼓判を押され、大々的に販売されることになりました。新商品の売り上げは好調で、連日早い時間に売り切れる人気商品となったのです。

そのパンを求めて店を訪れるお客様の姿を見ながら、Mさんはオーナーから「Mくん、ありがとう。君は新しいものを生み出すのは得意ではないが、メンバーをまとめ良い方向に導くことは得意だ。その力はパン屋にも必要なものだよ」と言われました。その言葉を聞き、「オーナーが自分に期待していたのは、こういうことだったのだ」とMさんは感じました。そして今後も、個性を生かし、働いていこうと決意しました。